

平成21年7月9日

観光交流課

直通 0742-34-1965

内線 2923

奈良市総合観光案内所（JR旧奈良駅舎）開設について

奈良市では、昭和の初期から奈良の玄関口として親しまれたJR旧奈良駅舎を改修し、新しい観光案内の拠点として、また奈良を訪れる方々へのおもてなしの空間として、「奈良市総合観光案内所」を開設します。

観光客の皆さんに奈良を心ゆくまで味わっていただくために、問いかけを待つだけでなく、こちらから働きかけるポジティブなお手伝いを展開します。

1. 施設概要

所在地	奈良市三条本町1082番地
建物面積	485.90㎡
主要構造	鉄筋コンクリート造瓦葺平家
休館日	年中無休
開館時間	午前9時から午後9時まで

観光案内所ゾーン展開

案内ゾーン

- ・総合案内...対面式カウンターで案内所職員が観光行き先案内を行います。観光はここからはじまります。
- ・本日のみどころシステム...パソコンモニターでイベント開催の案内を行います。
- ・ボランティアコーナー...観光ボランティアが様々な相談に応じます。外国語ボランティアを配置するほか、観光ガイドの受付業務も行います。外国語は英語以外の言語にも対応できるよう努めてまいります。
- ・宿泊観光客に対する荷物配送サービス...観光客が身軽に散策できるよう、荷物を預ければ宿泊ホテルに配送してもらえるしくみづくりを進めています。

情報検索ゾーン

- ・なら観光情報検索システム...パソコン4台を置き、既存ホームページを利用した観光情報の提供・奈良に関する豆知識の提供等を行います。
- ・奈良市内観光案内地図...写真やイラスト等で構成、観光ポイントを紹介します。

イベント観光ゾーン

- ・イベントコーナー...四季折々の風物の紹介や展示、コンサートなどに活用し、観光地へ誘います。

「特別史跡平城宮跡第一次大極殿正殿の柱と組み物」...このコーナーを囲む朱塗りの柱は第一次大極殿正殿の復原に際し、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が力学的基礎データを収集するために製作されたもので、この案内所開所にあたり提供していただきました。

大極殿の実物大の柱を体感し、古代の息吹に触れてください。

- ・映像コーナー...奈良市の四季折々の観光スポットを映像でご紹介します。

展示ゾーン

- ・観光パンフレット等提供...奈良県・市内の観光施設に関連するパンフレット類や行事案内、民間の施設案内など幅広い情報を提供するとともに、閲覧スペースを設置します。

休憩ゾーン

- ・休憩場所...観光客の皆さんに寛ぎの場を提供します。
このエリアにはJR奈良駅前広場の整備計画に併せて、オープンカフェを開設する予定です。

2. 運営方法

奈良市直営

(社団法人 奈良市観光協会に業務委託)

ボランティアスタッフ

外国語ボランティアガイド(奈良S.G.G.クラブ)

観光ボランティアガイド(特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会)

3. 開所式

日時 平成21年7月25日(土)午前10時～

場所 奈良市総合観光案内所

次第

- 開会
- 市長挨拶
- 来賓挨拶
- テープカット
- 機能説明
- アトラクション "奈良めぐり"
唄と演奏「奈良の唄保存会」(奈良市民企画事業)
- 閉会

4 . 沿革


J R 奈良駅舎の建築は、大阪鉄道株式会社により明治 2 3 年に建てられた初代奈良駅を継ぐ 2 代目駅舎として、国鉄時代の昭和初期に計画され、昭和 9 年にその主要部が竣工しました。

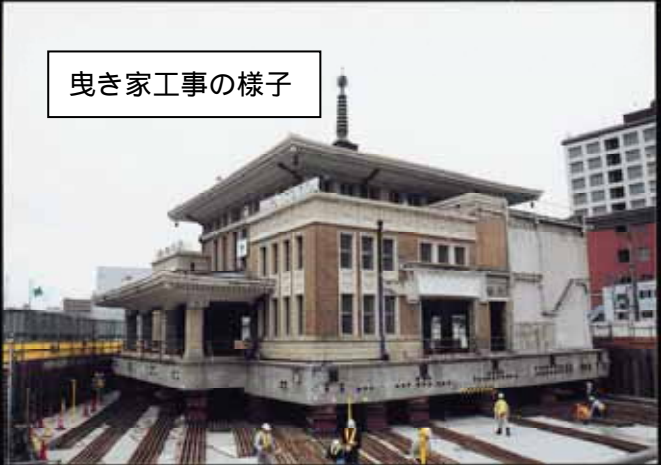
当時の建築技師が、奈良の諸寺院の特色ある屋根を参考として立案したといわれ、その様相は寺院風和風と鉄骨鉄筋コンクリート造の近代的構成の折衷様式をとっています。

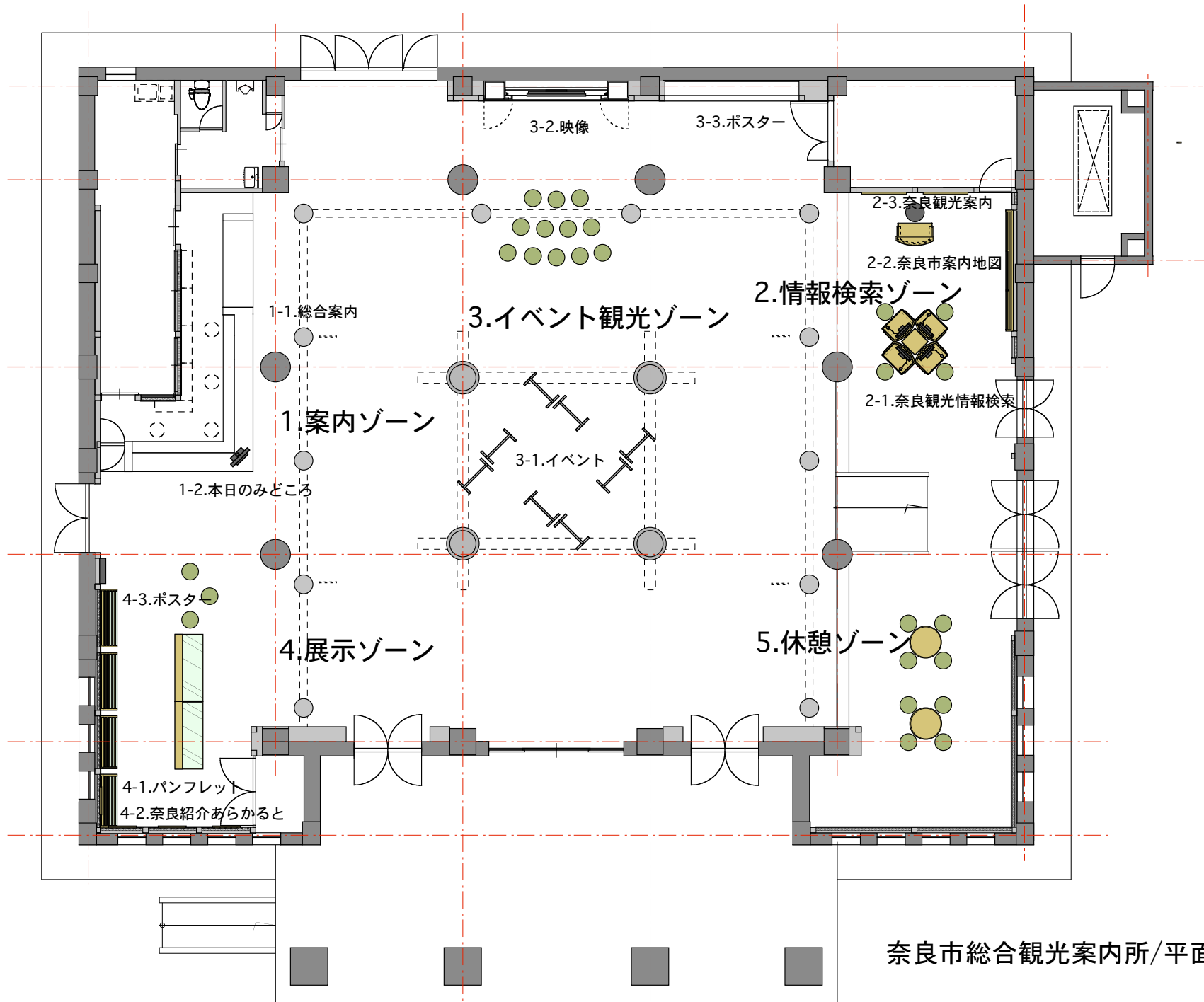
こうした和洋折衷の表現を用いた建築は、明治初期の擬洋風建築に始まりますが、洋風意匠の建物に比べるとその数は非常に少なく、日本の近代建築の特色を現すものとして貴重であり、建物は地域性を鮮明に表現した個性を有すものとして、地域の貴重な建築遺産となっています。

連続立体交差事業により、駅機能が新駅に移ること、また、立体化事業の仮線敷設に支障を来すことから、駅舎の存廃について論議を呼びました。市民をはじめ県民や観光客に親しまれ愛着が深かったことや、文化的価値を踏まえ、奈良県・奈良市・J R 西日本の三者協議が行われ、連立事業で駅舎を曳き家し、奈良市が活用することになりました。

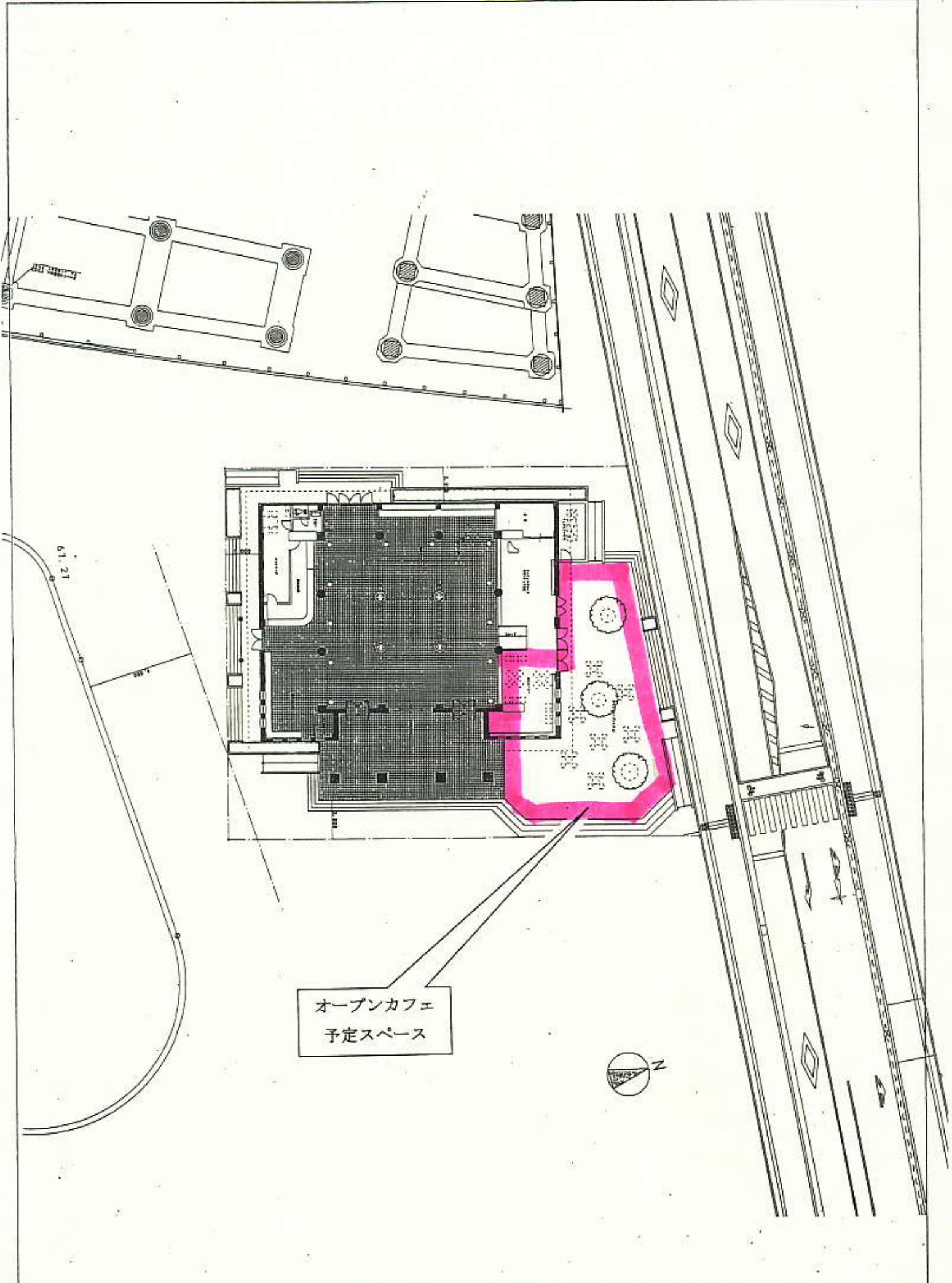
《年譜》

年月	内容
明治 2 3 年 1 2 月	王寺・奈良駅間の開通時に、大阪鉄道（初代）の駅（一般駅）として開業（和風木造平屋建）した。
昭和 9 年 1 2 月	寺院風の駅舎の母体が完成（2 代目）。設計者は国鉄技術陣。
昭和 3 3 年	本屋の増築、旧奈良駅舎の完成。  昭和 37 年当時の様子
昭和 6 2 年 4 月	国鉄分割民営化により J R 西日本の駅となる。
平成 1 3 年 9 月	奈良県、奈良市、J R 西日本の三者協議で、旧駅舎を連立事業で曳き家し、奈良市が活用することで覚書を締結した。

平成15年9月	奈良駅高架化工事のため、仮駅舎に移転。
平成16年 5月～8月	旧奈良駅舎を北東へ18m、反時計回りに13度回転させ「曳き家」移転した。曳き家は、5月11日から14日にかけて行われた。 
平成18年3月	JR旧奈良駅舎利活用庁内検討会設置、検討を行った結果、4案が提示された。
平成18年12月	JR奈良駅前まちづくり検討委員会及び懇談会で4案を中心として検討。観光案内所を確保し、観光産業の活性化に資する機能を付加した施設（観光案内複合施設）として提言された。
平成19年11月	経済産業省が国内の近代化に貢献した、旧JR奈良駅舎「地域活性化に役立つ近代化産業遺産(外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光産業草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群)」として、「奈良ホテル」と共に、経済産業大臣より認定された。



奈良市総合観光案内所/平面図



オープンカフェ
予定スペース



6.1.21

100'

奈良市総合観光案内所全景



内部（第一次大極殿正殿の柱と組み物）

